

城西病院 DMAT 能登半島地震派遣で講演 国際医療看護福祉大学校で

城西病院の村田智史救急部長は12月19日、福島県郡山市の国際医療看護福祉大学校で今年1月1日に発生した能登半島地震に出動した城西病院DMATの活動を報告。災害での活動の課題や心構えなどを講演しました。講演には看護学科や救急救命士の学生約80人が出席、講演に熱心に耳を傾けた後、さまざまな質問が寄せられました。

城西病院DMATは1月5日、茨城県からの第3次派遣の要請を受け、村田部長ら7人のメンバーで現地入りし、被害の一番大きな輪島市内で医療支援活動や保健医療調整本部の活動、孤立した避難所の治療などの活動を行いました。

村田部長は、地震前に全国を襲ったコロナ禍やDMATの活動、そして実際に大規模地震の現場に入ったときに何を感じ、どのような活動を行ったかを約2時間にわたって講演しました。

講演後、学生から「DMATになりたいが何が必要ですか」「被災地で活動するときの心構えを教えてください」などさまざまな質問が寄せられました。村田部長は講演を通して「自分の目で確かめることが必要。そして人を大事にしてほしい。災害が起きると全国から救援の人が駆けつけてきます。まず、議論をして壁を取っ払ってください」。最後に医療関連の学生で組織する日本DMAS（災害医療学生支援チーム）を目指す救急救命士の学生が生徒を代表し「講演を聴いて、被災地医療に非常に関心を持ちました。そして被災者を助けたいという気持ちが伝わってきました。これからも勉学に励んで、医療の現場で頑張っていきたいと思います」と感想を話していました。

2024年12月20日

